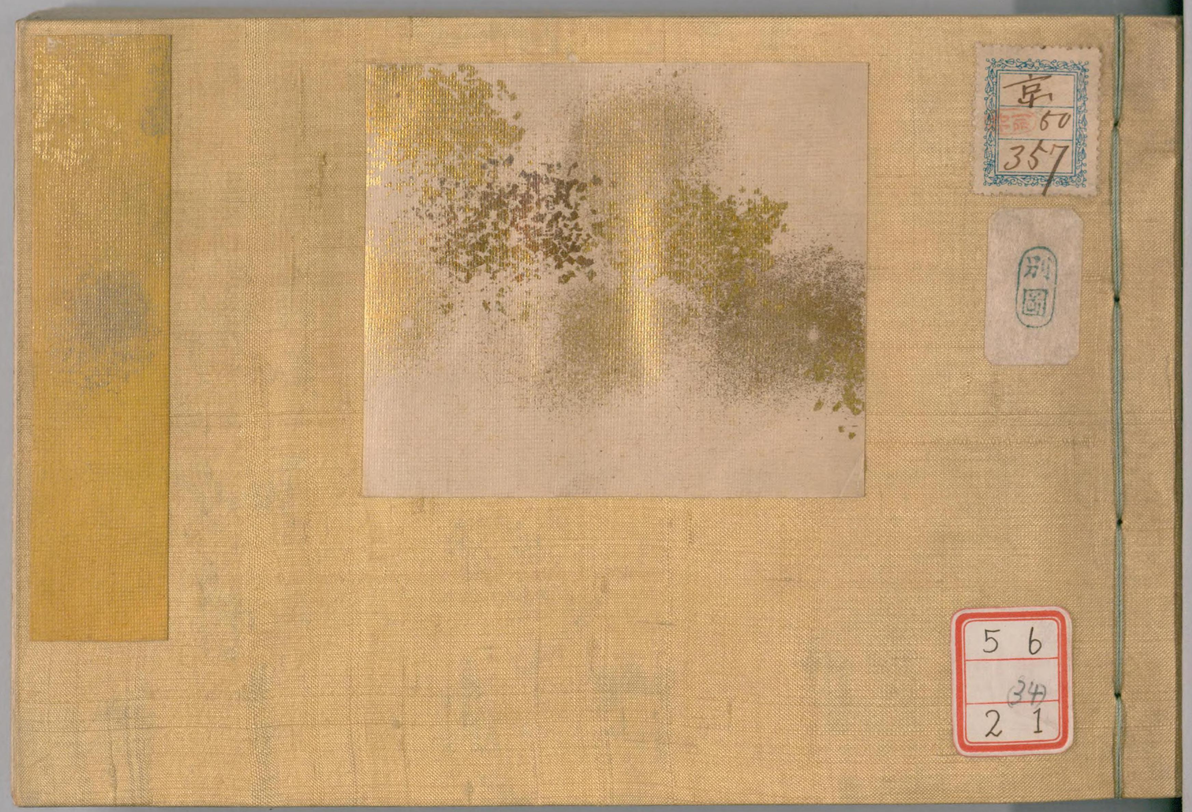


国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』　請求記号 寄別5-6-2-1

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』 請求記号 寄別5-6-2-1

ガラス使用

三井寺

装束之覚

シテ　面深　カツラ　同帯　着付箔　珠数
上着色ナシ唐織

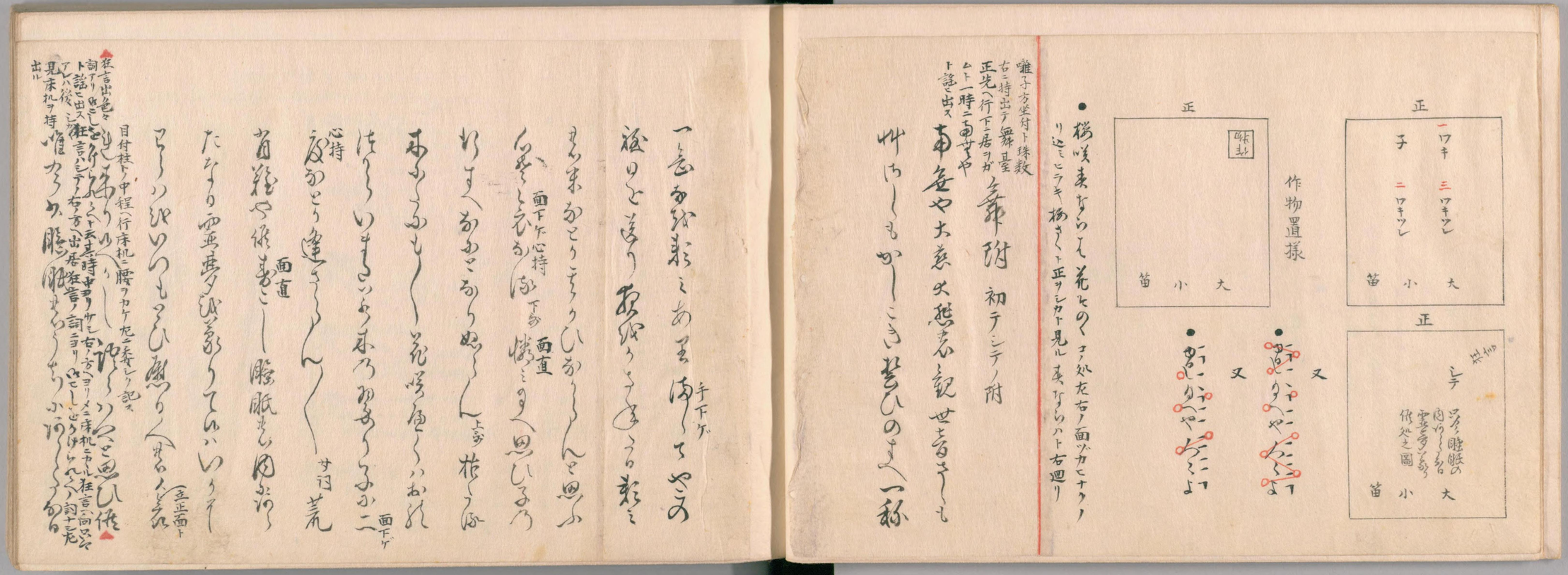
後　面深　カツラ　同帯　着付箔　腰巻色ナシ縫箔　水衣カタヒラ　笹モツ　扇

子方　着付箔　長袴　腰帯　扇　ナシ髪平元結　但鐘撞堂作リ物
鐘ハ本湯数寄屋ノ半鐘ニテモ又ブリキノ風鈴ニテモ

子方之附

●ワキノ先ニ立次第ニテ出ワキト向合次第不詣地次第ニ正●源氏ノ折切ニ向合道行不詣●先ニ出ヨト前ニテワキ座ヘ行下ニ居●結ヒ文ヲヤケキトスニテワキヘ向ヒフト詣●いかそかる狂女正●物語見ノ窪ノニテヘ●名ヲそのもりヘトワキツレニテヲノケル時ワキツレヘ向カヒ合ノミト詣●こう詣ワキ●カヽル物ノ正●ヲヽ何もヲヽ此ヘニテワキ子方ヲ引立ルソノ時立三足ホド出●カヽて伽ひ此時ニテツレテ行時ツレテニテ柱ノキハマテ行ニテチヲハナス子方ハ直ニ入ル

次第脇子方並様



（通ニサラ両手ニ特ム ヨコニシテ）
（左ノ方へ足氏ニ右左 並ト面ツカヒ）
（経左ニサカ手ニ持）

作リ 歌 ナシ 橋掛リヘ行幕ノ方向居 ワキ ナシ 面直 ワキ ナシ 舞台ヘ ワキ ナシ 柱向 ワキ ナシ 地次第ニ ノロギサシテ 方ヘスラリト出

作物ノ時ノ外三ノ松ヨリ一ノ松ノ間ニ出ル時ハ笛ノ前ニ出ル時ハ笛ノ前ニ出ル

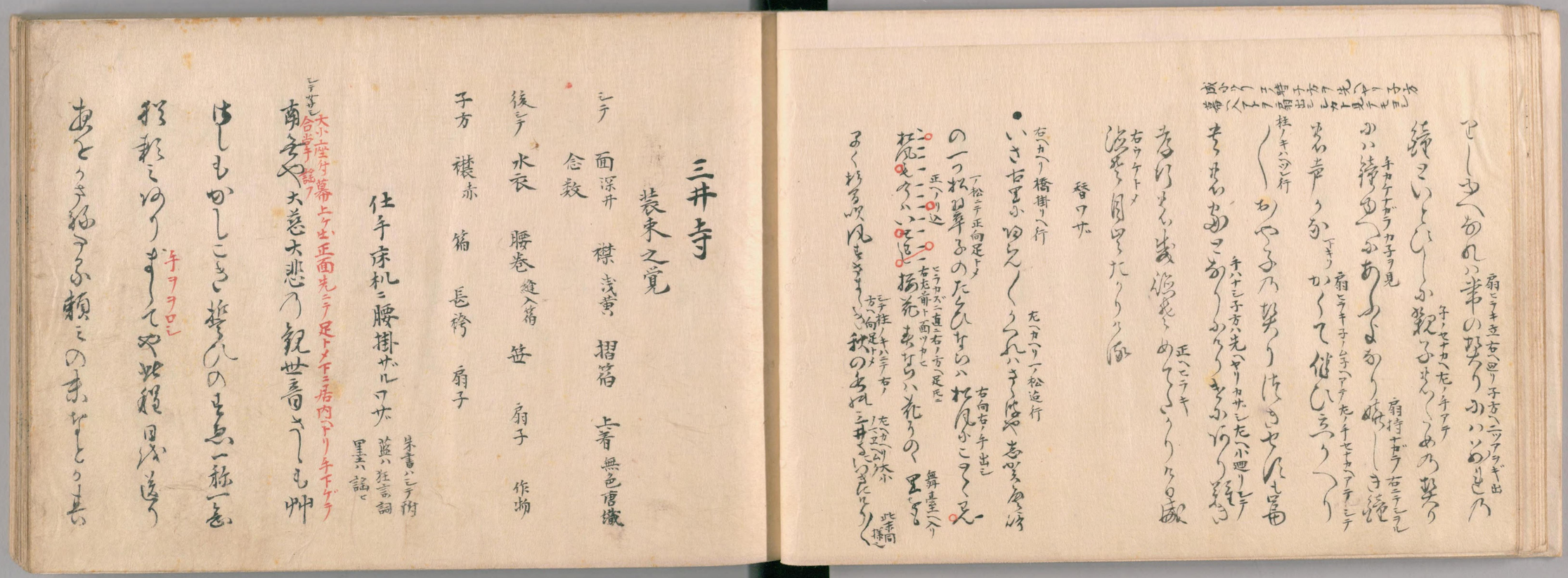
作物ノ時ハ笛ノ前ニ出ル時ハ笛ノ前ニ出ル

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』　請求記号 寄別5-6-2-1

ガラス使用

ひ〳〵と〳〵又海士の月ふまよりも待乃
こゝろけいあるもの多いおういて
浦やしも悪狐の像〳〵の声（面下ゲ心持）
ふるりの松すさまじい（面道）荒らくの寒覚
ぬる夢もいかしく（面下ゲ心持）浦くの秋しきふこのくもつく
くと思ひなすも哀をいつの世かう（面道）
くと面白し（扇ヒラキ立上ル）月落烏啼て（大ビラキ右）霜
天に満て淋しく紅葉も海水もそれ
のうかまぬ（右ヘワリ）（左込）捨乃舟（ヒラキ）（下ゲ心持ヒラキ）苫の船や
通ふ〳〵（右ヘワリ）遥窓雪もるそとも別
し境迄の橋迄も（サシ角ヘ行）（カザシ左ヘワリ）袖をうち掛ん
浦の浪風も静かて秋乃夜

大小ノ足ニテ正ヘ二足ツメ
歩ろ〳〵月すむ（下ゲ）弁才乃袖そさや
もそれ（子対）（子方詞内ニ扇タヽミシテ柱ノキヘ行正）めの（ワキ）ものゝ多きに（ワキ）何
事ぞ（ワキ）と尋給へ（ワキ）是は思ひもよらぬ
事なれ共あるにまかせ舟を寄
ふねをよせ（ワキ）ふるまひ（ワキ）ける（ワキ）狂女たちこの国里いつくなる者
ぞ（ワキ）と尋給へ（ワキ）是は遥の国清見
潟（ワキ）なる（下ゲ正）何のふ清見（子方）
きの（子方へ）ものゝ（子方）能うサ（子方）是迄（子方）もやつれ
お仰られつほいにしく（子方へ少シ出）家子の手舟
殿こさめもし（子方へ）（ワキ）浦〳〵めつらしや（ワキ）（足下ゲ右ヘ）
為（下ゲ正）なる（子方）おもひ（子方）の業なれ（子方）事なれ（子方）ハ



三井寺

装束之覚

ニテ　面深井　襟浅黄　摺箔　上着　無色唐織
念数

後ニテ　水衣　腰巻　縫入箔　笹　扇子　作物

子方　襟赤　箔　長袴　扇子

仕手床机ニ腰掛ザルコト　朱書ハニテ附　藍ハ狂言詞　黒ハ語ト

大小座ナラバ幕上ケ出正面先ニテ足ト〆下ニ居内ヨリ手下ゲテ　ニテナシ　合掌ニテ謡ノ

南无や大慈大悲の観世音さても仲

はしもおしこき誓ひの名も一称一念

称名となりまして　手ヲヨロシ

あとうやあるふ頼こそ末なとうとい

扇ニテキ立右ヘ回リ子方ニツアヲギ出

鐘こいとしふ数ふれそうめの契り

子ノセナカヘ左ノ手アテ

千カケテヲラカ子ヲ見　扇持ナガラ右ニテヨル

かい撞もつふあるよるの鐘しき鐘

扇ニテキノ手ニアテ左ノ手セナカヘアテニテ

名声うかすきりかくて住しうらうら

拵ノキハヨリ行

ありやうの契りはもやもれも當

千ハナニ子方ヘ先ヘヤリカサシタヘ小廻リニテ

きるものもこもりふかうきふかりきる

右ヘカヘリ橋掛リヘ行

●いさ古里ふ初んくうらんはきふや志賀の唐崎

左ヘカヘリ一ノ松迄行

一ノ松ニテ正向足トメ

の一つ松幾ふのたんなひハ松風かこそ

正ヘヒラキ

ニ一二一二一古左ノ前ト一面ツヽト　正ヘカヘリ込

梵鐘ふかいこ一二一二一古左ノ前ト一面ツヽト　ヒラカズニ直ニ右ノ方ニ足ヒ

撞花もなひ入うの　里ふ　舞座ヘ入リ

ヨクヨクヲ吹風をさそふ　ヒダリ方ヘ向足トメ　北ノ方向ヘ

秋の夕暮れ三井寺の入相の鐘

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』　請求記号 寄別5-6-2-1

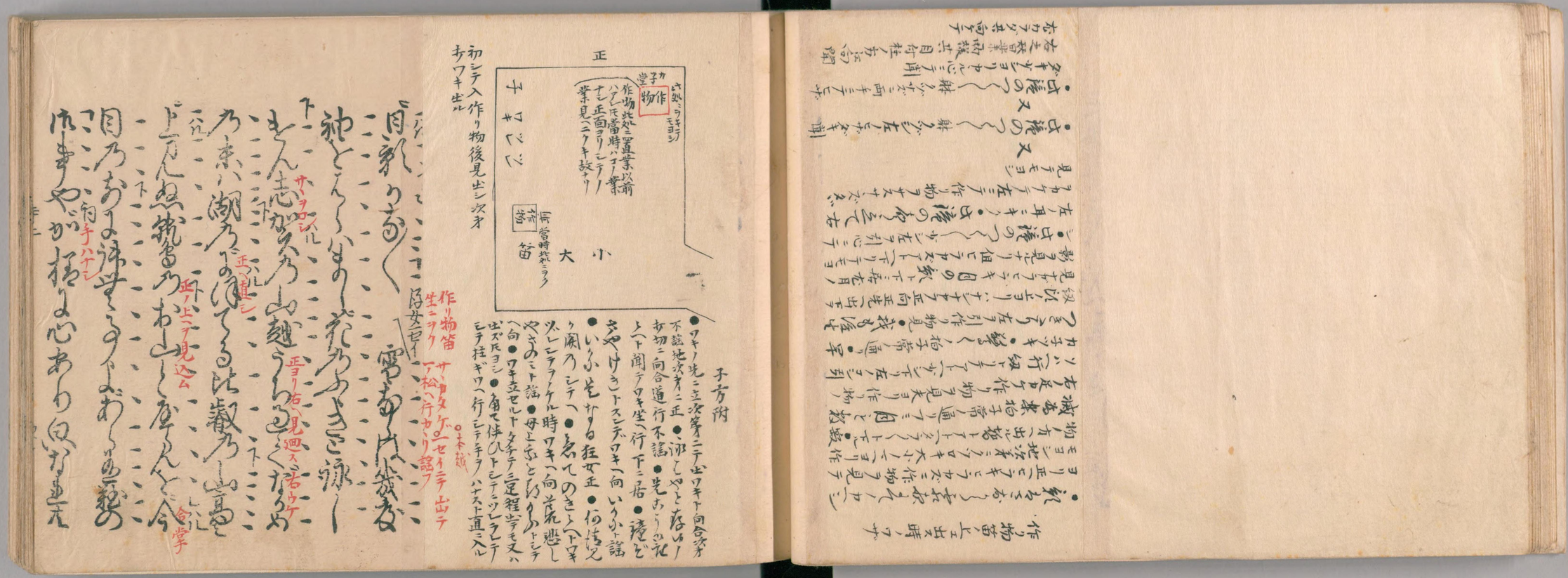
ガラス使用

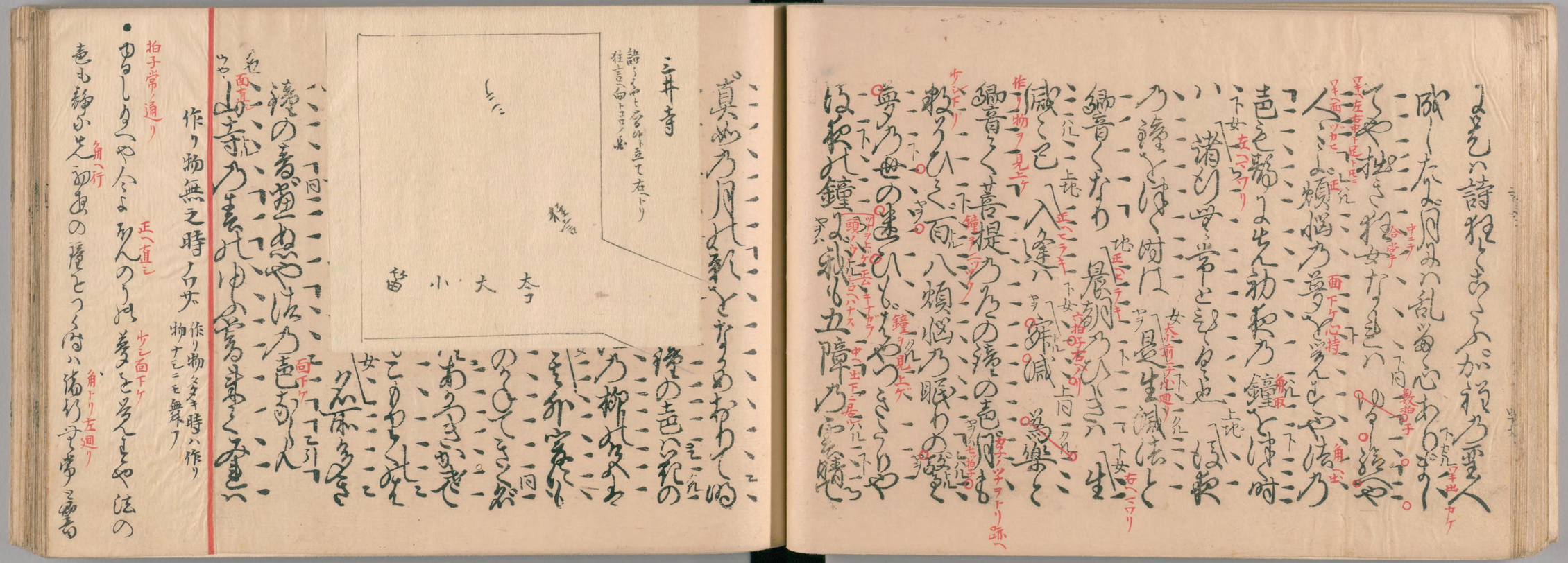
うんそんこゝろの心をなぐさむる　面下ゲ
千字　情こゝろへ　面直シ　ふるの行末なごとなりぬ
らんらん　十字　招きるまこもらく
花咲色くいとのつらいまこと若木
子ムヒ心
うみとりみ二度なとも逢さとん
くく　廿日　面直シ　花香桜やいとこし睡
眠の内かねくるふ霊夢を夢り
ていいふまらいをいつもこん磨ふ
立右ニトリクロギ
人のう名事りいつし帯りや
狂言ニテ向詞ノ　狂言へ向キ居シ図面ニアリ
とおもふな　イヤ只今ほ下向おてい

圖面ノ通リ大ト太鼓
ノ向へ行キ下ニ居ル
いふまい　ねつ夢あいのふも
直ルニシテ右ノ方へ
角迄ニ下ニ居
狂言へ向
うそ唯今少睡眠の内かねくるふ
霊夢を夢りては　ふよにのよんと思ひて
三井寺へ参んとねくこれい霊夢を常
りては　正　よい月出なさ告ゲよてのまう
夢の内也ねくるふと三井
寺如在の月かなの夢もはるあ
ふきさ立越ありてい夢ふく　狂言へ　荒嬉し
こゝあいせ物ふら告ル仕をて三井　正直立ル

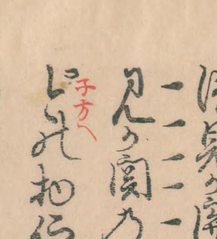
国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』　請求記号 寄別5-6-2-1
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』　請求記号 寄別5-6-2-1





くるう母あの種をつくるる 是は風流也
ひくるう 晨朝のひきは生風うも 入おろ
柏子常ノ通り
海風笛樂をひくきく 薔薇の道は種の
声 自も 粧をひく 百八ツんのうは誠
右廻り
のおとをくきくの世は迷ひもこそつきう
やはあのうねの糸も 足トメ 袂も雲ことんく
正先ノ下月ノ影ヲ見ナガラアトニ三足下リ下ニ居ル
まつの自の歌を詠めりさん



国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』　請求記号 寄別5-6-2-1
ガラス使用

狂女は童なる事とや　若ぶさされとて（ワキヘ）
ら我こ物狂ふくに　女セレ　かく是れ物まで
狂ひ出でたるものを物によ狂ふもことはり
逢ふ時は何しか狂ひ出でへさ是ハ正しき（子方ヘ向キツカ〱ト出テ）（此朱星ヨリ朱星迄ノ文句能ニテハウタハズ）
我子にてくはん　されハ社我子にてさやかり（ワキニトメラレ跡ヘタラ〱トサガリ）（シテ柱ノキワニテ安座正面下ゲ）
前なる事をやはくは　まさおのまゝへ

早鼓

シテ

我とも共に名乗りそ
御詞にて申シト云トコロノ事

太コ　大　小　笛

早　言語道
きらへはまつ里と
御とうつむさ
師の君成りしう
此寺よ育ち
うく母と我と鐘ひくが猶よ狂
ひ出たるとハ夢さもあはれなりけり

女（面直シ）まさ童も物に狂ふ事おん母の（子方ヲ見ル）
別れて後は身は道あひみる嬉しさ
母の親と母とある身の親子の（ノビテ子ヲ見ル）（面下ゲ）
面ふを身まと思ふ故よ尋ふ親の（正ヘ直ス）
身ハ恥ある人めも思はまし（左リニテシホル）上（ウ）
されハ涙の余所めも何とかある
思ひと逢ひと悦ひの色なし（手ヲロシ面直ス）女上　これ
あふも喜ふ涙ハされは猶ハ此
もはや餘る涙りふ（面下ゲ）地上　寒逢鐘
き親と子の縁は重きを契りき
て（面テ直シ）月も幾歳めの今宵（女）（子方ヘムキナガラ立）
地　此三井寺の鐘のわれさく（二足ツメ）女　親子に（カ子ヲ見ルカ子ヲ）（左ノ手ニテサシテモ）
逢ふ何故ぞこの鐘の聲なく

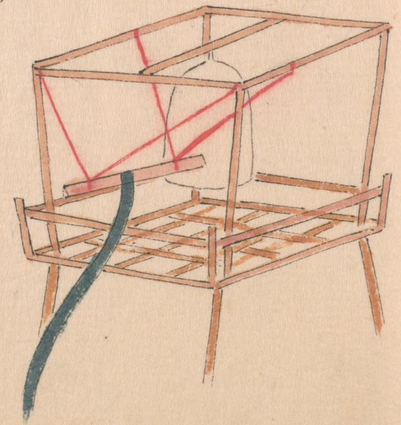
国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』　請求記号　寄別5-6-2-1

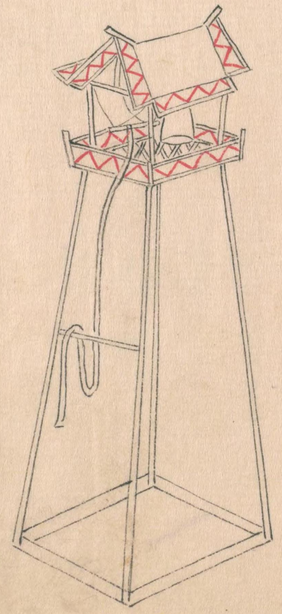
ガラス使用

・秋の水乃三井寺か着る衣三井
（内トリ左ヘトリ　大小ノ方ヘユキ　大小ノ前ニテ足トメ　返シ二足ニテ足トメ）
寺かとやくつきぬるり・遥のふむの
（向フヲミカト見トメ）
ふ・月もまんこころのやみやま
（正先ニテヒラキ　ヒラカズニ足トメ　モヨシ　右方遠ノサシコムスルヤウニ）
上ヨリ廻ノ物思ニサシ廻スハアシ・上ヨリ下ヘ
舟ウサスコロニテ二二足出
回やとものつるく舟のあい・月の
（半ビラキメ右ヘ廻リ　正向ニツ）
詞ナラハヅメユキ　在言ノ字
（一松ニ立居）　ツキ出ス　カナヅツキシマウト謡出ス
ら雪
（正向ノ少面下ヘトリ流レ）　面白乃雁の音やる
（面直シ）
抱子正ハリ込笠ヘ左ノ手ヨリ
流りおの隊のら舟もこくみく
笠左ニサカ手ニモチ笠ノ先ノサガリメカヨシ　右ヘトリ橋ガリヘ行
出らん舟もおもおのせい隊
（一松ニテ板バメノ方向クコ橋ガリヘユキヤウ抱子ニカヘテヲス）
・是生滅法を響々
（大小前ニテ小廻リ此小廻リ腰入テ廻ルニアラズ大小ノ数ヨリ先クアトヘカヘリ正ノ方ヘ）
舞臺ヘ入
故郷・ら小も雁・月も雁い
（地次オシロヨリ笠ヲステ肩ヘキ　持作物ノ方ヘツカヘトユキカヨ　ヲツキニ行コロ足トメ）
（柱先ニテ作物ノカ子見上ケ）
さ雪もらん
・是生滅法を響々
（大小前ニテ小廻リ此小廻リ腰入テ廻ルニアラズ大小ノ数ヨリ先クアトヘカヘリ正ノ方ヘ）

手出シ
（廻リナリニ手出サズ正ヘヒラキ）
晨鐘乃ひゝきい・いり色
（作リ物ヘツカヘ上キ鐘ノツナヲ両手ニテ取跡サシサガリ左ノ腰ヲ引右ノ手ハサキ左ハアトニカヘテツナハナス）
ハ・月もこの月もく
カナヨニアツクコツキヤアノ手サキニナラヌヤウニ
体ニテ上ヘ引上テハツク
百八煩悩乃和雪りの・指雨の
（ツナヲ上ゲサシタミ正ヘ向頭ヲ）
ノウシロハナス又左リ引分ナリニ面ヲ
両手ヅツ一時ニハナシ鐘見上ゲテモ
撞かるゝも五障の雲もこ雪
（向フノ下タノ月ノ影ノサスヲヨ下タヲ見テ見ナガラ下タニヲル）
・志加の月の影を・雲天か
（半分子方ヘムキ半分ハカホバカリニテ子方ヲ見ル）
満を・海の果か別也し・恥も
（左ノ手ニテ右目ニヲリ）
（歩切ヨリ左目ニホリ）
人目も・荒痛はし・うれ
（手ハナシ面直シ）
なのら

一柱惣長　六尺八寸
一柱高欄下迄　五尺四寸
一上　一尺四寸
一高欄下　一尺八寸四方
一同上　二尺一寸
一エンノ出　三寸
一軒ノ出　三寸
一屋根ノ臺　一尺五寸四方
一棟ノ出　一寸

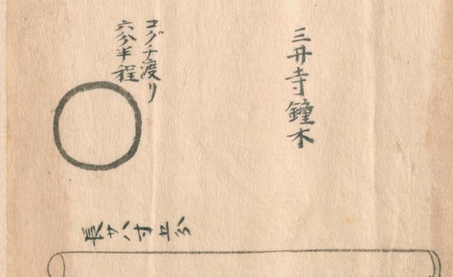




一棟高　四寸五分　一角ノツノ　五寸
一高欄高　三寸五分
一鐘ノ緒カツラ帯
一鐘ハ風鈴又ハ数寄屋ニ掛ル半鐘ニテモ

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』　請求記号 寄別5-6-2-1
ガラス使用

三井寺鐘木



習業

一セイニ笠着テ出ル　但装束ハ又キサゲ其余ハ常ノ通リ

コノ附ハ笠ノワサニテ本ワガト千ガイメ計ヲシルスホワザ

同断ノ処ハシルサズ狂言不出

大小出座附幕上ケ出ル花ニ笠右ニ念数

正先一出下ニ居笠花ノ方下ニヲキ合掌謡

・南無や大慈大悲の観世音（ニテワキ）

面下タヘトリ眼ルコロ

・みとりをに二度あふ迄そうらん〳〵

■コノ印ヨリ此アトノ四角ノ墨ニテ又ケル

・そらいそいそと尋もろ人の

くらゐと思ふれしとのにせ

のうる■笠右ニテ引上笠花ニトリ笠ノ内花ニテモテ

芸ふまうせてこ井ちと

立クツロギヘ

やらん〻〻海のうへ〻〻

落ヌヨイ笠カブリ出

・雪ありくい数度袖を払ふ〻〻

跡ヘサガリシヲリ

・人のおやこ〻ていとふ〻〻出〻と

地

・乱れ心や散るらん カケリ 女上 郭の秋〻を

捨てゆくい

面ヅカイ

・そこそ人の笑いめる〻〻 正 花を

三足ツメ

・秋のあるありい田人をも まそよめ

る〻〻

橋掛リ幕ギワマデクツロギ

左ヘトリ正向笠左ノ手カケ向見ル

・梅れいそ浪やたゝ幸蜂飛ひとつ

手ヲ入

ナシテ松近出

一ノ松ニサス

松そとりこの野びあらいまつ

七ツ拍子左ノ足ヲ辻

風ふことそいん松風もありいとい

半ニラキ右ニマワリ舞臺二入

〻〻桜さく春ありい花園の

シテ柱出トメ

左ヘトリ大ジノ方向三足ツメ

・風まそこまで〻〻秋のあり乃こ井ら

笠又キステ正

ふつきふ〻ひこ井らふそやく

つきみありり

此末本ワザ同断作リ物出シテ

モ出サズモ作リ物出サヌ事別ニシルス

十五 三井寺

囃子方坐付ト殊数右ニ持出テ舞台正先ヘ行下ニ居ヲガムト一時ニ南無ヤト謡ヒ出ス

シテ女サシ

南無や大慈大悲乃観世音さ
しもぐさしもかしこき誓ひ乃末一称
一念なほ頼みありましてや年月を
運びし歩をかさぬる数の末
などかその甲斐なからん心
うちあはせたる 面下ケ心持 憐に添ふる 面直
乃縁末なりふこそあはれなれ

上歌

枯るゝ木またなもし花咲かば
いとそのほかまさる木かれみどり
子にまたなどか逢はざらん 面下ケ心持

女詞

荒ゝ鏡やひとまどろみし睡眠乃うちに 面直
あらたなる霊夢を蒙りて候

○狂言出色々詞アリ(女)ヲあしとぞかゝられ候ヘト云其時中ヨリ少シ右ノ方ヘヨリメニ床机ニカヽル狂言ハ向居テ(女)ヲあしとぞかゝられ候ヘト詞ナシサアレハ後見床机ヲ持出ル
狂言ハシテノ右ノ方ヘ出居狂言ノ詞ニヨリ(立正面ト目付柱トノ中程ヘ行床机ニ腰ヲ懸ケ扇ニ手ヲシクリ記ス)

いかに申しはいつもの如く参籠
申して夢の告を語らばやと思ひ候。○
唯今少し睡眠のうちにあらたなる
霊夢を蒙りて候は我子に逢はん
と思はゞ三井寺へ参れとあらたなる
御夢想を蒙りて候 正○ 嬉しや行
くれあまたを仰ぎ告の行方をとく
あふみぢの急ぎ行く月に心急
三井寺に参らん参り候ひし 秋も
ふらん 是は江州園城寺の住
僧にて候又是なる幼き人は我
を頼と契約し候て身近く師弟
の契約をなし申して候又今夜は八月

十五夜の月くまなく候ほどに幼き人を
伴ひ申し講堂の庭に出で月
を詠めばやと存じ候 上音 いや頼ひなき身を
もとの月の友と霞とくゆふべ色を染
身の今は涙も諸共に雲
といふやうに月の名のむ
白露りなし
△雪ならば幾度
袖を払はまし花の吹雪と詠じ
けん志賀の山越うち過ぎてながめ
の末は湖の鳰照る比叡の山高み
上見ぬ鷲の御山とかや今
目の前の浦よするさゝ波の
ここは 流れ行やがて猶よ心ありげなる

△扇サシ右ニ笹持一セイニテ出橋掛リ一ノ松ニテ正ヘ向キ謡出スヒラカズニ足トメ謡出ソモヨシ

我いおりよりあるじや我おりて
つとかりあり乃鳥類や書入てし就
まろれいまるそうまつやのお
やうくいそ本此てこそそうまる
乃彩湯とも白糸乃
乱れ心や狂
乃ん 那れの秋と捨くるの
ねさしそうなやまの
ものこそうくの
も古郷乃我子のあるの
も行ふるさ古里に
海辺しうら浪やまり幸崎乃
の松風乃類ひなうは松風
よまとうん乃も今いとう

さく雲あうは花園乃里とも早
秋まの吹風をさまし秋乃水れ
井寺よまりまりまり三井寺よやく
ゆはまり 挂いとうる三又乃雲ぶ
高き月よあくまて庭のまの陰よ
女上 来こうひい三又乃雲中
乃新月の父ごよ里乃外の故人の
心水乃面よそる月なとをかそ
ハ秋もなう歌もおうはおうさ
月ハ山見う時雨よ
鳴乃海ぐく波も栗津乃松そ
く海あれとうみもふく
月ハまのとうの鏡山やま田原ハ

よき詩程とあるふかねの雪人
成しなお月みに乱当心あるまで
てや松さ程女なるまい
人こよ煩悩の夢と覚てもや法の
声も都より先初夜の鐘をほく時
諸り母常とそなる迄
の鐘をほく時は 最生滅法と
響くなり 晨朝のひきに 生
滅こそ 入滅 寂滅 為楽と
響く菩提の道の春の色月も
教えひく百八煩悩の眠りの夢
夢の世のまひもやうきうやや
なお初夜鐘より外に障の雲晴
真如の月も教えなるあり
こそ 夫 楽の 又 龍池の柳も
雨のよふ 弁
ようれ人言葉のそやしのそてきく
も高砂のもとの梓あるまで
秋の霜置るう月もこのもとに
つもる 寺 龍池寺 名
梓の春風やなの色ぬん
名 面東 やし山寺の晩鐘のまくみ
入逢の梓お花ふ散々る夢お
しめさせと夢のまきられ
ぬ 名 面下 心得
ぬるかあるうきの妹背とお

狂女恋慕の事なれば
女ヲヒカヘテ
なほ是非おわすまじ
狂女ものぐるおしきものをおよび狂ふもうるさし
逢河の河しも狂ひへさぞ是非おわすまじ
子方へスデノ下ノ間ヨリ出
中ノ一ノ松ノ間ヨリ出
我が子ここにおわすかや
ワキ時ワキツレツキ一ノ松ヘスデノ下リ正向安座面下ヲ居
そこのきやう
前なる事をやいかにひくかたまへ
きやう
なふそのきやうにおわすひやう
早
きやう
もやもやの出給ひくひやうはまをたゞ御ひとりの楽人
今の何とやうもさ
我が後河乃関清んの前乃老松ぢう
ぐ高人のまして後世とぶらひ寄る者
うぬと我を殺さんとひくかねの
ひ出るふとも無念なるまじ
下女一面直
まさく童も抱き狂ひ事おわす間
別当殿なまじひに遁あひみるばかり
中一ノ松ノ間ヨリ出
子方へ
まの恥ぢ母もろともに
子方へ
面ふせもの也と
正ニ直
お故よ生の親乃
上ヨリ長地
カカニ手下ゲ
分の恥をも人めも思ひまし
左ニテ
シテ
さそうの仕事や余おめも何よりも
おもと逢ひと悲ひのふる
女上ニ
子方へ
おろく涙も流るゝ
左ニテシヨリナカヲ正ニ直
もわろく
地上
実逢難
き歌どもの
地下ニ三ノ手寄ノ口ヨリ
女子方へ
て
女
同じ我もろともに今宵しも
地下ニ三ノ手寄ノ口ヨリ
女子方へ
逢へ
地
行故ろこゝろよれ
カナラズ見ル

まきみ　うつしおはゝむしろ
三ノ引ヨリ左ノ足フミ出シ目付柱ヲ見
心ヨリスラスラト目付柱ヘ出
又ヨロ祢アラニトニ二重ヒラキセヌ故此末ノむしろされノ外ニテ右廻リナク二重ヒラキスル此末同断

又
シヨリナカラ右ヘ廻リ
うられと人あそひとさせて
此末同断故不記

又
右ヘクツロギシヅカニハシガヽリヘ行
一方なしぬおりし笹葉の露も何地によし
テノ引ニ幕ノ方ヘツカツカト出　左右ノ足カケテ正面ノ方向左ノ袖ソテカフリ
身ヲノハシ正面ノ方ヲ見
奈良の都を立出くつゝのありみゆきの中
袖モドシ下タヘサシ廻シナカラ右ノ下ヲ見又左ノ方ヲ見
月の川をうちわたりて山崎
左ノ手ニテ左ノ腰ノアタリヲ持引上ケ川ヲワタル心持ニテ一ノ松ノアタリ迄二三ヘシヅカニフタイヘ行　足ツカツカト出右ニテ足トメ
ソての玉水ならのこして
正面先ヘ出
此余常ノ通り

•我子に別れしの袖ぬれや此次キノ地ヲ返シノ通リ我子わむの
袖ぬれや百萬か舞を見るトウタフ

シテ附
笹持居ル内ハ開キ手ヲ下ヘ開ク笹ステ
扇ニナリテハ手上ヘヒラク開キハ着流シ
故足ヲ大キクヒラカズ少シヒラク

•狂言出テワキト色々カケ合アリテ扇カサシ南無釈伽
舞ニ仏ト謡　地謡ト南無釈伽にゝ　狂言　南無釈
伽にゝ　地謡ト南無釈伽にゝ　狂言　扇カサ

シテ初ノ出モ出候ニテ
観世流ニテハ太コ手出ナシワタフ
ノ狐出シ外ノ流儀ニテハ太コ手出有テ

シナガラハアミサアノ〳〵トイヽテヲドリナカラ廻リ正ヲ向
テ謡テ居ル此処ヘ間ニ合フ様ニ橋掛リノ長短ヲ見キテ
ヒ出舞臺ヘ入ル処シテ柱ノキハニテ足トメ狂言ノウタフテ
ヲルヲ見テスラスラト狂言ノウシロヘ行笹ニテ狂言ノ
襟ヲ一寸ウツト狂言蜂カサイタトイヽテ地謡坐ノ方ヘ
ノク狂言ヘ向テ二三足下リあらわろうト謡出シおんことを
とらせ給へト謡ト狂言アフ其ハ下手ニ面白のおんど
を取て南無阿弥陀仏やトイヽ此時正向南無阿弥陀仏ト謡フ
•人ハ何故の正ヘ二三足出•雲晴れ行をもヨリ西ヘ向シヤト
見•何らうに佛やなむあみワキ正面ヘ二足ツメヒノ字ノヒビ
キヨリ左右打込ヒラキ•さくや妻の正ヘ身ヲ直シ•七くる
まト右ウケ右ノ手上ナカラつむ共ト正先ヘ出笹前ヘヲロ
シ足トメテ直ニつきじト右ノ足一寸フミヒラキ笹ヘ左ノ袖カ
ヘシナカラ手ソヘ左ノ足一寸フミコミ•おもくとも夫ナリニ
手ヲ向ヘ出ス心ニテ左ノ足フミヒラキナカラ一寸クツロケひ
けやト右ノ足ヒラキノ様ニヒキえいさらト夫ナリニコシヲ引
立ル心ニテ笹キ車ヲ引様ニアトヘタラタラト下リえいさと左
ノ手ハナシ面直シヒノ字ニ右ヘ二足ツメいちどにト左ノ袖カヘ
シサシワケテ右ヘ廻リ•わめやくシテ柱ノ先ニテ左右打
込ヒラキ•謡スミニテ二重ヒラキ渦まりてスヘ拍子
•嵐やぬノヒヽキヨリ右ウケ•落曇りノヒヽキヨリ正
ヘ直シ出•すゝめせよト足トメ打はト右ノ足フミ出シ右ノ
手ウシロノ方ヘ廻シヱリヘヤツギ左ノ手ソヘ左ノ足ツメ首

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』 請求記号 寄別5-6-2-1
ガラス使用

我子のあふむの袖なりまた親子の
姉むの袖なきや百万ヶ舞と見ん
見えもや錦川の葉の袖の
子れゆく涙新たなり さえやかゝん
まま八何くとゝくらしもとめは宿もなし
思ひ時ふ八錦も南北世八やも何く
乃類そや 半羊径衛ゝがゝら
鳥雀枝の深きにあつまる母子舞
あある限のよるへ八何くと水乃あはれ
果いふあられ紫乃梢の露の宮つき
うき夜月を送りまさらに二世と
かゝり中れ契りれ末ハ花くつむぎも
もとめ思ありき夢れなかき別きと
成りて 比目れ枕しき波乃衾
もゝかきちきりの那 ならし坂
乃このてかしハのふた面ごにもかくま
と旅人のなき跡乃涙にもそその
あしみ浮なきま思ひ重なるま
なみ乃流乃月の新しきあれ大寺
乃柳原みゆり子乃ゆく忽白露の
おき別まくハ津ちともあらん失
まもりへくなるゝ思ひ草紫まで
忍れ露そあれとましなみ良れ都
を立出くゝ跡りはる山さ紀乃川を
うら渡りゆく山城は井手れ里玉水
ちる名乃ミして影うつさで面かげを浅

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』　請求記号 寄別5-6-2-1
ガラス使用

●ちらら車にあく車。右ウケ右ノ手アゲ正先ニ出笹ヲキ前ヘオロシ左ノ袖カヽヘテサヘカブセ左ノ手ヲ笹ミソヘ言●おもくともひけや。車ヲ引ク心持ニテアトヘ重ソウニ俯ドスンくトサガル尤腰ヲヘンテサガルべし●るいさと。左手ガシまう袖ヲハラヒドス●ゾくをさゝてひるらん恐いさら恐い千さ。左ウケ左ノカヲ見又右ウケテ右ノカヲ見正面ヘサヽヒ拍子ヲうと右左リトフム時左ノチヲサヽミソヘスグニ右ノ足ヲアゲアトノ方ヘやヤウニノ拍子フミスグニ左足ニテカロク拍子フミ又スグニ右足ニテレンカリト拍子フム●ゆりたらるゝおし左手ニテ頭ヲつサレ●又ゆの黒き。左手サゲサヽミテサレ開シ右ヘ回リくり●ろつしゆらむらがらサヽミテ正サヽサラ〳〵ト出サヽヲた前ヘオロシ品ニ左手ヲサヽミソ〳〵上ヲ右右中ト面ヲガ●ろれシ人ゝ。面ヲ右ヘキリ〳〵ト回リサガリ●親るのちぎり。正サシヒラキ●君をもちんで●右ウケサヽアゲ正ヘウケヲヒラキ前ヘオロシテ見●ゝそゝを徒(ムス)でゝ。サヽヲカタゲ右ヘマワリカケ跪左ヘキリ〳〵ト小回リシテ正ヘヒラキ●みたれ(ぶれ)もの。なもら●なも合ゝやりみた傳しく正ヘサラ〳〵ト出下居サヽ下タニオキ合掌万ゝそいいまそしヲキ〳〵●きをもつて右サシテ見●事ゆ法の正向●我ゐふワキ〳〵●寒痛つ〳〵を正●妙〳〵さ人のワキ〳〵

ろに〳〵いのりなをきをぞうもこれをのた（右ノ方ヘサシ廻シ）
ののちく（子方ノカヲ見）なゝハ母こそうきたにめぐりなよ（立ヲカヲ子ノコシヘ左ノ手アテ右ノ手子ノムナソヘシテ柱ノ方ヘソン行）
此末本ワサト同断故不記
又 子方大キケレハ下ニ置其時ノ中ノワサ
ちまり（子方ヘ向キ扇ニテニツアラキナカラ子方ノハヨリ両手子方ノ扇ヘカケナデオロス心持ニテ両袖ヲ両手ニテ持左ノヒサシ立右ヒサシノ下ニ居）ゐうくん事の花沙（アラノキ子）
ゐまり（両袖持ヤカラ子方ノムキヘ方ノカホヲ見）菱うつくう幻う（ヤカラアテシホル）
此末同断故不記
又
母こそうきもおもくりなふのりれ力て（扇子方ノ前腹ノアタリヘアテ左ノ手子方ノコシ板ノウシロヘアテ左ヲ坐ヘソン行）
をゝさき（子ヲソレナカラシテ柱ノキシテ右ヘ廻リ）ゑもうつの車路を彩ふう（子方ヲ左ノ手ニテヲヒヘヤヲフ）
正ムキユウケンニテユウ）る娘〳〵きよ〳〵（右ヲ下リ子方ヲ先ヘヤリ跡ニツヾキ扇ヲヽミ入ル）

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』　請求記号 寄別5-6-2-1
ガラス使用

●狂言アシライ内ニ出舞臺ヘ入狂言ノカシラサシテタヽキ
ツヾラフノト強出ス・ありとそうじへしト強イ狂言
討アリスミテ正面向前巻ノ体能舞ト強フ・ムら雨
あの出ヒラキ・西へゆ〳〵右ウケ二足出ウそ伏やまま
やこた右手込ヒラキ・そもゝ奏の身也シ・ちら〳〵
事ふかゝらぼま右ウケ右ノ手アゲ正先ヘ出サヽ左ノ手
ソヘ・おりらそもヒラキ・いちらふサシワケ右廻リ
ことのちら〳〵右ヘ向教ゑや彼め左右手込ヒラキ・実や
世ゝとの二重引ヒラキ扇ニノセ・狂この言ヒ右ウケ
●勝自の正ヘ出シ出・狂ら男のヒラキ・前ヘ出サヽヨコ
メエリヘアテ左ノチソヘリ・ゑ牛の車のヲヒリのこと
くゝをたウケ〳〵るらん右ウケ・ろい正面ヘ寄込左ノ手サ
ソヘ・ま〳〵ろいと空引ヒラ袖子・ありケゝ〳〵下ラ見・
あんなりチハヒシ角ヘ行・まふ面前ら左廻リ・ぬりた
るろかし大ホノ前ニテ小廻リ正ヘヒラキ・うつしなゝサシ
テ正向先ヘ出・村り〳〵すヒラキ・うれと人ハ右廻り
●麻衣右ウケ手アゲ正先ヘ出・ゝゝふさけヒラキ・ヒ
ゝを法ひてサヽ上ヘアゲ左ス・もゝろきれ正ヘ出・ゝ
うことのヒラキのゝれなるゝ〳〵・面を教迄ハ地
得と正面先ヘ出下ニ居サヽ下ニラキ・面をゝ左を手合
セラガム・子方ゆるふヤ前き事のハサトリシテ狂ノ方
ヘツロキ正向居ル・ゝゝろあれのワキヘ・ゑひゝゝろ
ゝそいワキヘ二足ツメル・おかも正・おをまそもし
ワキヘ・ゝを由ゝゝ右サシテ見・車ふほの正向・我
るふワキヘ・実ら備ゝ〳〵を正・蜂〳〵ゝ人のワキヘ

右ノ方ヘサシ廻シ
それをのた
子方ノ口ヲ見
立ナカラ子ノコヘ左ノ手アテ右ノ手
ナムナヘソシテ狂ノ方ヘソン行
めのちゝ〳〵ゝふハ母ゝろうすにめゝりかゝ
此末ワザト同断故不記
又子方大キケレハ下ニ置其時ノカヘワサ
子方ヘ向キ扇ニテ二ツアラキナカラ子方ノソハヨリ両手子方ノ
扇ヘカケナテナロス心持ニテ両袖ヲ両手ニテ持左ノヒサ立右
ノヒサソキ下ニ居
ゝゝゝゝゝゝおゝゝろうんまの花沼
方ノ口ヲ見
両袖持ナカラ子方ノムコヘ
はゝり菱ゝうつゝゝ幻う
此末同断故
不記
又
扇子方ノ前腹ノアタリヘアテ左ノ手子方ノ
母ゝろゝもゝ処ヘソン行
きゝゝゝゝき
子ヲソンナカラシテ狂ノキハ
ニテ右ヘ廻リ
子方ヲ左ノ手
ニテカヘナヤラ
都ふゝ
正ムキユウ
ケンニソ
る蛛〳〵きよ
右ヘカヘリ子方ヲ先ヘヤリ跡ニツヾキ扇タヽミ入

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』　請求記号 寄別5-6-2-1
ガラス使用

●ヲモテヲ大ホヲ見●ヲクヽモワキ〳〵ラこい
ゼ子ニ立ツ我子ホおもし正ニ向●ヲ高ク舞ヲ出ニラ
キ地次オニクロキサシテニラキ扇持●ヲヽやうつ正●
我子の出ニラキ●いのるなりイロ〳〵般若度ノ通リ●ヲ
ヨそうなをワキ〳〵方如ニ正
●ヲ高ク舞ヲワキ〳〵●ワヽ我子ヲ見ヽやシホリナカラク
ツロキ扇タミイロ〳〵●イロ〳〵角ニ行角より左ニ廻リ地謡
坐ノ方ヨリ見廻シテ柱ノ方ヘ行右向キ立袖ヲさト謡出
ス●ワヽ高子ヲ見ヽやたテシホリ●面ヲ振返正ヲ
ガム●我人なりヽも扇ロケサシテ角ニ行●行ゆかか
さを左廻リ●面ヲ振返正ニ半ニラキ右廻リ●ゆなり
ゆも正面先ニ出●逆袴なりら翌ひ小ヲカミナカラアト
ヘタラ〳〵ト下リ●たひなり〳〵下ニ安坐ノたテシホル●ワワ
リふらゐも扇タミ●ゆはやワキ〳〵●ヲハ見〳〵ともも
正ニ正シ扇ニラキ立●ヲヽ〳〵なりうん面ノ子方ヲ
見面手テアラキナカラリバ〳〵行子方ノセナカ〳〵たノキカ
テ●ヲヲ我ら右ニテシホル●能〳〵ヲヲくヲユウケシ●母
ヲろかふ子方ヲ見正ニ子方ソレ行●袖ひもうつの
シテ柱ノキハニテカサシたヽ小ク廻リ正ヽニラキ●娘〳〵き
よ能ふうる神カヽシ右ウケトメ拍子

百萬

装束之覚

シテ　面深イ　カツラ　同帯　着附箔　腰巻縫箔　腰帯
長絹　前折烏帽子　笹持　扇サス　後見ヒモヲ
子　直面　着分箔　放髪　長袴　扇持

子方舞附

ワキノ先ニ左次第ニテ出正先ニテ足トメワキト向合地次第ニ正●先
こうはせ〳〵トたヘトリワキ生ヘ行下ニ居●いくまでへきワキ〳〵●
こうてまらせんよるそれはせんぜ正直レ●ゑまりよろをて痛
リ〳〵やワキ左セル将左レテ入向居●母ともかシテトツレ左入ル

イロヘ
シラリカラ　ソロヘギ
ひら我子恋しや笛吹出シテ正ヘ二三足出右ヘたノ足カケカラ角ノ方ヲ
大勢ノ人ヲ見心持ニテシカト見ナカラ角ヘ行足トメトクト尋ル心持ニテ
見内ヘトル心持ニテたノ右下リたノ足ヨリ向フノ方ノ大勢ヲ見ル心持ニ
テたヘ廻リレテ柱ノキワニテ右ヘ向左右たノ尋ル心持ニテ足共ニ面ツ
カイ足トメ中ラシカト見内ヘトル心持ニテ二足ホド下リ是迄ト謡出
なごや我子ト正ヘ直ス又二足ホド下リ正ヘ直シ是迄ト謡出シテモヨシ

又地謡生ヲ尋ル時ノ中

角ニテ見内ヘトル心持ニテたノ右下リたノ足ヨリ向フノ方ノ大勢ヲ見ル心
持ニテたヘ廻リナガラ地謡生ラシカト見地謡生ノ方ヘ行足トメたノ右
足共ニ段々ニ向フノ方ヲ地謡中ヲサガス心ニテ見内ヘトリ左右
下リ又尋ル心持ニテシテ柱ノキワヘ行右ヘ向キ　此余三通リノト
　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　日前故不記

又
いつ〳〵ここ〳〵てかりるらんえいさら

ヒカリギナガラ右ヘ廻リ右ウケ正ヘリ込拍子常ノ通リ

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』　請求記号 寄別5-6-2-1
ガラス使用

又

笠カツギナガラワキ座ノ方へスラ〳〵ト出右ノ方へ右一足フミ出シ正ノ足一足フミ出シ正ノ一ノ足拍不常ノ通リ

いつくとさして行るうえいさう

又

右手上ヘアゲ　笠テカヲサシ　右ノ足リ大小ノ前ヘ行

ぬりまるおかしき引つきてまもなく海見さみ

ミノ前ヨリ左ノ足フミ出ル目付柱ヲミル　ヨリスラ〳〵ト目付柱ヘ出

たまもみうつしもふもう為

又

シヲリナガラ右ヘ廻リ

うれしと人をそしえせて　此末同断故不記

又

右ノクロギシヅガニシガリヘ行

一方なるあしの葉もかぜによ

しふるの松をたよりにうつりすみまも

テノ引ニ笠ヲ直ノ右ヘ出右ノ足カケテ正面ノ方向左ノ袖カブリ　身ヲハシ正面ノ方ヘラヒル

袖モトシテ左ノ手ヲ見又右ノ方ヲ見

左手ニテ左ノ肩ヲ敲クヤウニ持引上ケ川ヲワタル心持ニテ一ノ松ノタリ近ヒシヲニブタイ一行三足ヅヽト出右ニテ足トメ

うつりてやまいもの

正面先出

ての里も水をあのこして　此余常通リ

又

カゲラ水ノツヽス心持ニテ下ヲ見

影うつる白雲なかれ〳〵て姿なりけり　下ヲ見ナガラ正面ヘ右左トツメ

右ヘヨリ角トリ

駒て月日ゆく旅の草の枕も白波の

中ニテ正ヘ半ビラキ右ヘヨリ

汐風にまかせてくれ行舟も西と東へ

左右打込

つる浜辺野を分ふまよふて四方の雲

を海もれいか

又

カゲラ水ノツヽス心持ニテ下ヲ見

影うつるおもの草ゆをかき渡りけり　下ヲ見ナガラ正面ヘ左右トツメ

片左右ニテ左ニ足出　サシ込ンシ右ヲ見又左右ト見ナガラ左右ト足ツメ

浜辺野の草ふまよふて雲の雪を踏

ゆき見ハ　上　花の浪さの糸山や　肩ヒラキ　大左右ニテ出

又

笠恨免し　正ヘ直シ面下ゲ

ふるそ袖ぬれ　右向肩テ一ツ打立

子ノ向肩ニテ二ツアラギナガラ子方ノハヘヨリ両手子方

ノ肩カケテラロス心持ニテ両袖ヲ両手ニテ持左ノ手左右ヒサシ下ニ居　下ヨリアラギ子方見ヲ見　両袖モ十ナガラ子

そうろんけのもれまもりぬ

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』　請求記号 寄別5-6-2-1

ガラス使用

方ノ腰ヘ（良ヲ）アテレヲル

うてうほうらしう 初切ヨテ立此末本葉ト同断故不記

又子方大キケレバ下ニ置其時ノワザ

子方（向扇ヨテツアヲギナガラ子方ノキワヘ行下ニ居）子方（尤ノ手カケ）

きぬぐ〳〵おそうらんけの花陰こ

子方（手アテナガラ）子方（良ヲ見）

子方（手アテレヲル）（初切ニ面ナヲレ）（正（向ユウケンニツヌユウケンナレニ正ヘ）右ニテレヲル）（右ノ手ヲリテモヨシ）

よ姿うつくう幻うへ〳〵もどる

るふ〳〵かのかをるをなるも花

（右ノ方サヘヒロシ）

ものためのらこなれハ（子方ノ良ヲ見）（立ナガラ子ノコレヘ尤ノ手アテ右ノ手子ノ手ノソノシテ柱ノ方ヘツレ行）

ゆめ 此末ワザト同断故不記

又子方大キケレハ下ニ置其時ノワザ

（子方（向扇ニテツアヲギナガラ子方ノツバヨリ両手（子方ノ肩ノヒザツキ下ニ居）カケテヒラロス心持ニテ両袖ヲ両手ニテ持尤ノヒザ立右）（良ヲ見ル）（アヲギキ子方ノ）

きぬぐ〳〵おそうらんあの花陰は

（両袖持ガラ子方ノムヘ）

まうらうつくう幻うへ

（扇子方ノ新腹ノアタリヘアテ尤ノ手子方ノコレ扱ヘレニアテ太コ坐ヘツレ行）

又

母をおもふ心のうれしかな

（子ヲツレナガラシテ柱ノキワニテ右足リ）（子方ヲ尤ノ手ニテノキワガラ正ムキ）

きるをきれをもつの車路を踏久

ニウケン

ほ嫁〳〵さ〳〵

右足リ子方ヲ先ヘヤリ跡ニツバキ扇メニ入ル

ニテ附

笠持居ル内ハ開キテラ下ヘ開ラ笠ステ扇ニナリテハ手上ヘヒラク開キハ着流シ故足ラ大キクヒラカズ少シヒラク

狂言出テワキト色々カケ合アリテ扇カサシ南無妙伽

無二仏ト謡地謡ト南無妙伽〳〵〳〵狂言南無妙伽

〳〵〳〵地謡ト南無妙伽仁〳〵狂言南無妙伽

シナガラハアミサア〳〵トステラドリナカラ廻リ正

ラ向テ謡テ居ル此処へ間ニ合フ様ニ橋掛リノ長短シ

見ヲヲヒ出舞臺へ入ル処シテ柱ノキハニテ足トメ狂言ノタ

フテラルラ見テスラ〳〵ト狂言ノウレロヘ行笠ニテ狂言

ノ様ラニヲツツト狂言蜂ガサイメトステ地謡座ノ方ヘラ

狂言ヘ向テニ足下リ居ワルト謡出シもんこゝえう

ートト謡ト狂言アフ某ハ下ヲ見ル面ヲ向ルもんこゝえう

ゆうたれトステハ時正向ヨリ笠ヲ仏ト謡フ・人ハ見夜

の正ハ三足出・雲晴れ弥〻ヨリ西向ニカト見・ゆみや

仏や伽ラ〳〵ワキ正向（二足ツメヒノ字ノヒザキヨリ左右ヘ込

ヒラキ・色々や春の正ハ身ヲナヨレ・七〻ノ様ニト右ウケ右

ノ手上ナガラつゐおゝト正先ヘ出笠前ヘヲロシ足トメテ直ニつき

ゞト右ノ足一寸フミヒラキ笠ハ左ノ袖返シナガラ手ソヘ左ノ足一寸

フミ込ミ・おゝ〳〵ともに夫ナリニテラ向フヘ出ス心ニテ左ノ足フ

ミヒラキナガラ一寸ツロギひゆやト右ノ足ヒラキノ様ニヒキ

あんさらト夫ナリニコレヲ引ニル心ニテ重キ車ヲ引様ニアト

ヘタラ〳〵ト下リ忘いさト左ノ手ハナン面直シニノ字ニ右ヘ
二足ツメいちどにト左ノ袖カヘシサレワケテ右ヘ廻リ・
私ゆや〳〵シテ柱ノ先ニテ左右歩込ニラキ・謡ヌス
ミ方切ニテ二重ニラキ地ニわりてスヘ拍子・唄やん〳〵
ニキヨリ右ウケ・落雲リノニキヨリ正ヘ直シ出・す
る世ふト足トメなりト右ノ足フミ出シ右ノ手ウシロノ
方ヘ廻シエリヘカツギ左ノ手ソヘ左ノ足ツメ首ヲセ〳〵
やうハ物の車にめさるゝにつくをさして夫リ
ニ左ノ方ヘ左右ト出左ノ足右ヘカケテ右ノ足フミ出シ左
ノ足正ヘフミ出シ右ノ足ヨリ正ヘ笹ヲ打込テノリ込拍子ヲ切
ふらゝ〳〵ト地謡ニテシテ方ヘ右ノ足引ニトヘル身ニ
ナリスヽ地謡ニテ笹ヲ拍子ニテ三足ウケワトフム
や云けやチハナシ面直シ出車ト右ノ下ヲ見・地足なり角
ヘ行角トリ・名に百万ヲ左廻リ・おとゝ後の大小ノ前
ニテ小廻リニラキ・地ノリシテ右ノ手上ヘアケ左ヘうつ
ミトヲウス・まゝ〳〵ヨリ泥ミこゝ二重ニラキすみノヒ
バキヨリ左ノ足フミ出シ目付柱ヲシカト見ヲヽろヨリ
目付柱ヘ行一寸足トメむら〳〵すト右左右ト細ク面ヲニテ
カラ二三足出・うらんと右ヘ廻リ・狩ヲ乃ちう大小
ノ前ニテ正ヘニラキ・うこむすんで右ノ手上ケすそに
ト正先ヘ出笹前ヘ出シ見・そゝとニラキむちんて右
ノ手上ケワゝにト笹カツギ・むら〳〵つゝれ右ヘ廻リ
・すゝこもシテ柱ノキハニテヒラキスル小廻メヒラキテヨシ
ゆらゝれゆら〳〵後なるゆ前無身ナリシ敦伽ト正ヲ見
正先ヘ出・ちんじんト下ニ居笹下ニラキ・我子に正ヘ合
掌夫ナリニ前無や大守ト謡ちゝせのじゝト謡キ
リ手下ケ子方ノ謡ハテルト右ニシキタル笹右ニ持立ニツ

カニ右ヘトリシテ柱ノキハヘ行正向キ左ラル・ルとハなら
のワキへ・走ハ何ん正向キテモヨシワキへ向イラモヨシ正
へ向テラレハ書にハトワキへ・ろゝり乱れ〳〵トワキへ
二足ツメル

正 枝今もゆとこ云者乃ちゝハ娘〳〵か
ワキへ
る名きう お坊さま〳〵もう〳〵そさ
ワキへ
放ゆこそ乱走髪乃遠近人よ面
ワキへ向テモヨシハリ右ウケテ居テモヨシ
ト尼ツカイ又右ノ足ニツツメ
ワキへ
をさ座をそゆも我ゆよ思りやあ
正
少し車ゆ法乃毛半て、念仏ト急
ワキへ
てさゝ我ゆよゆんといのるかな
ワ正
実痛りまこれよりゆ誠伝心を
多〳〵なくいかゆ程集乃事ゆ
おとうハ思りあとさらん
ワキへ 次第
まく入れ言葉うゆそ走よ好〳〵と为

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』　請求記号 寄別5-6-2-1
ガラス使用

をうきき法楽は華をまふさ
なりハやくくよかくし
をかくもしは舟そ羅雅為長るよ
二足ツメル
況なくも我なよふむの袖なれや親
ロ正（出足トメ見ヘトツメタル足ヨリ
二足正へ出テモヨシ
みの袖むの袖なまや百万の舞を
⊕地次第ニ遊
ステ前ヌ
又みくやこ
北ヘヨリミクヲ
とうよみれゆく情行なり実や
おもしろき八何くこそそめハ
宿もまぬ何ふハ故郷もおしけ
世ハそも何くの袖そや年経
衛よかなり鳥雀枝の源そに
つまる実事もあく情のよる
へハ何くまそれ別れ果いふふ

ウバ
足ノ
留ノ
ら乃袋の物の袋の古名ふ
き色月を送るしふさしを二世
くかきし中の契りは未ハ忘ろ
むもこめろさ袋のかうき
別まと成もそく暗月れ花ろ
き波の表そうかきちきろの郭
紫ら坂乃このてかしハ乃そ面
ここにもかくよそ信人のかき添乃
袋、、正出ル
ここそそてのろうこ添ふこふ
思ひ重ふるまかみ乃流そ月の
ヒラキ
乳おまきこの大寺の御張みや
キノ引ニ九ムキ左ヨリ右ノ方へ
少クロリ
サシロヒラキ正向面
下ゲ心持左右ト足下リマ
中ニテ右ニ足ツメ
そそ乃ゆくふ名白袋乃おき別まし
ロ此処三遍メニスル時ハ如ケ中ル
時ハ二足下リたニテシヨル
くいばらこそそ失まろ
右ヒラ足ケ！

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』　請求記号 寄別5-6-2-1

ガラス使用

柏崎

装束之覚

初シテ　面深イ　髪　同帯　若月箔　上着色ナシ唐織
守文ヲ持出ル

後　面日断　髪　同帯　若月箔　腰帯　水衣カタトル
腰巻袋入箔　笠　扇
物着ニ長箱カ　朝折烏帽子カ
頭直垂カ　素袍折カ

子方　角帽子　熨斗目　水衣　腰帯　扇

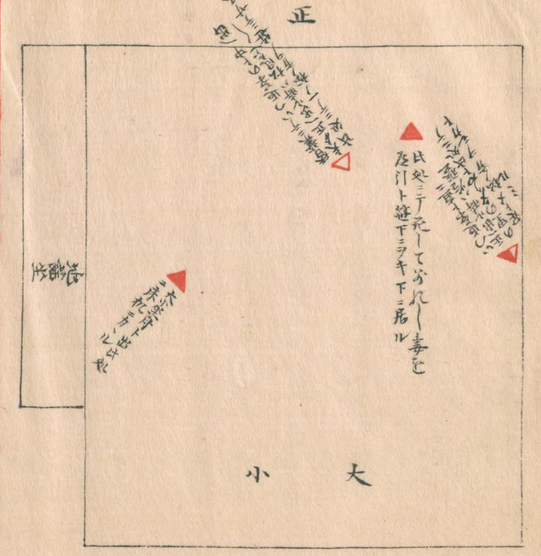
子方ノ附

●ワキノ先ニ立出正先ニテ正向ワキト先ヒワキ論スミ笠ニテ水衣ハヘニテワキ坐ヘ行下ニ居●ワキ向ヲトリ立ツルヘキトワキ引立ル時立シテヘ向居●ワトヒ足ヘテシテソレ行時ソレレテ入ル

又

●人めをもわり候（右ウケ）（正出ズニ申ヘ行）我妻いつきて来のりよとおもふ候（タヲカケ正出）
おいかうおいかうおいかうおいかうと（正ヒラキ）（氏末日断）
又
●落のとをしのびかたのむ秋を松ととへかしよ（正先出）（笠襠下ニシテ第ヲヒラ立ツヾミ笠ノ本ノ方ニ下ニ居ヘリ直ニ安坐テニツ下ヲツリ）（左ノ七ザ立右ノ七ザツキ一ス）
松ならん（氏末同断）いさやとよ

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』　請求記号 寄別5-6-2-1
ガラス使用



又昔柏子

おもかげや雪の汀の
おもかげや雪の汀の
ふんと松しのそこそこかかく
ふんと松しのそこそこかかく
たのもしたのもしたのもしやや
たのもしたのもしたのもしやや

●文ノ文字如是カク処ニハアラデモヨミ様ノクダリコニ記ス

袖もくく父沸せん痛ううつせのひ
松かく空しく成更ハこの内の秘しをハ
たて忠臣やうを父我そうてぶ所
花ぶんも度ハふへき思立ある波形の道
あやと思てんさんと思よふをぬうそ
ふ波つくそ物ふく命つれかくいい
三度ノ内ニハ恋ふし死この道をぶ焼して
ぶ公を献ふしおとしまもと

●免程村ノ紙ヲ用ユ七折半ニ折ル
●長絹タヽミエリノ方ヲ左ニ其上ヘ烏帽子たノ方ヘヨセ烏帽子ノ先ヲたノ方ニシテ長絹ヘトヂ合ル

舞附

●大小坐舟ト幕上ゲ出地謡坐ノ方ニテ正面ウケ床机ニカヽルシテ床机ニカヽルトワキ次第ニテ出ル●脇会ノ小太郎ハ小太郎ノ笠ヘ●そしてのヲキヘ●比丘尼ハ正
唯うをめよ立おて座ぐてとうしを

女(笛モ)ノ謡ナカラ立ニテ拵(シツカニクツロキ正向居ル)
極重悪人無他方便唯称弥陀得生極楽
(ワキヘトニヒアリ セヌユニロ)
ご社人くいつま」 (地)是ハ〳〵きの御おほせそと
女(カワキ)ノ母(ハヽ)
存知の事とおたち候るそ 教(ハヽ)本
来弥陀如来の御ちかひましまさ
ゝや 正向 ぬ乃 浄土ご歩 附ハヽ善光
寺如来堂の内陣こそハ極楽の九品
上生の曼荼羅なるよ 女(カワキ)人の参るまし
この御制戒こハそもされハ如来の仏
育(カワキ)まる(カケテ右ノ足ヲ左ヘ廻シ笛ニテサシ廻シ左ヘ中ト見廻シ)
くハ何たいへ 教(ハヽ)ご正ヘ出合ヒ
左ゝ南無阿弥陀仏 (数珠ヲ揉ム)
女(角ヘ行)
数也 (角トリ左廻リ)
いの り みごハ道ひ〳〵一筋ゝ義
ご去事ましく 大小ノ前ニテ正向正ヘ出カケ
曼荼羅の方極楽の上
品上生乃内陣よいごやござんす 正ヲシカト見 左ニテサシラ
先ゝ

(ケ右ニテサシ左ヘ廻リ)
遍照十方乃 大小ノ前ニテ正向正先ヘ出 ご寺の常の
(下ニ居笛ヲ見)
処ゝよりも 笛ヲハナシ面下ケ心持
いさやかござんす 又 常
(笛ヲ捨下ニ置ク上ニメクテ立ツ ヘミ笛ノ本ノ方ニテニツ下ルグ)
ゝよ 教(ハヽ)ご
(正ヲシカト見)
ぬ乃 内陣 (長絹ヲ見)
ゝよ 西方ハ別ご寺
乃造なる 面直ニ
形見こう 今いまござる
ごなくハあるまじ 落もあるまじ
遺しも思ひ置しう 又長絹ヲ手見テツシ上ヲカケテ面ヲ見
是を 正ヲシカト見
如来に参
らせて参乃なごおもひ 面下ケ心持
ゝよ ござんすぞや
ゝよ 面直ニ
ゝよ 直ぐ乃
ゝよ 連歌乃
ゝよ 又さうりかと乃お節
ゝよ 孔薛まで ミごござんす

又後見長絹ヲホシ持チ ワタス面ヲミテウケ持白ヲ見テ謡フ

図 長絹前ニテミラノ物着 長絹ホシ キセ宿モノ ストト物ヲ スニテ正面 謡出ス

よろづ直蜜を出し衣紋つくろひ
きかしこくありつきこつくありつき
よ相よ人よそやさをて（少シ居ヨヤニシテ 角右ノ方ヘ出ス見 左ニツカニシテ柱ヘツクロキ）
るハ滝乃水（ソノ地ニテ柱ノキワニテ正）それ一念称名乃声の
中みハ極楽乃光明をまち受る表素
迎乃雲のよそおい（女正ヘヒラキ）九品蓮臺をそ
散らす（女正ヘ出サセ廻シ左ヘ大キク廻リ 角ニテ ワケ）妙香海うてんを薫し自如
地よみちらく（大小ノ前ニテアトヘ 左右ヨリ見角タミ）つるハ傾世間乃幻
相を観るに飛花落葉乃風
よりうもれ時変をさとり電光石
火乃ありさまにハ生死乃去来をな
る事始めて驚くべきにあらざる
よの多こまもとりし儀乃観よ

（地取面袖少シクツロケテモヨシ 次ノ居ヨヤニシテモヨシ）

のとをたにそ（ム）果もさだめ乃芝乃つ
ものうき身乃置所 波かこいまし旅
乃空（左ニテホル ニ余リナシニワキヘ向テモヨシ）もうつき世乃なごりや（角ヨリ三角ニ真ニ 出ス）悲しき
乃波眼よ遠り思ひ乃煙胸よりも（面下ケ心持 出カケ角行）傷む
を薬もるに三界よ流転して狂人間の
（角トリ）妄執の晴か（角ニテ右ヘ上ヲ見）ぬ雲乃その月のみか
きや（左廻リ）明きそこまも卒ホ無臺よりん
そこにも欲うそして煩悩のさつかよ
（三重ヒラキ打切レバ左ニテホル 左アレバ打切ニ三重ヒラキ）結ひ（正ノ上ヲ見三足シカ出）ほどけそうる（中ニテ正ヘヒラキ）しき飛漳の山路
（左ノ足少シ引 面直シ右ヘ廻リ）生死乃海やすしいるふてうはせに
（ム）スラ〳〵ト出トメ
（大小ノ前ニテ左右）ほ乃を法乃ともしんこ実欲もさ人間乃ふ
三口四意三乃十ぜ道多りさ（大左ニテ）それ
ハ初のホ法もし三界一心なり（右）乃ふ

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』　請求記号 寄別5-6-2-1
ガラス使用

ゆ〳〵わと今ハ早疑ひ（カサ先ゾ早）
やみに（正ヒラキ）迷ひくれ〳〵

初シテ替ワザ

・父うおれいいうおれハ打切ニ文ニテ懐中シ・拵〳〵ニ仰ル
ホワキへ向・ゐやまつて立ワキノソバへ行ニザッキ下
ニ居立・弓ハ公のかうらん右ノ手ニテニザ打右ノ手ワ
キへサス・う〳〵免〳〵の安生メシヲル安生ナレニモタア
レバタゞ下ニトクト居シヲルアト同断

初シテノ心持ハ処ニ記ス

・なよ小太郎ニハニツカニワキへ気ヲカケテ向・ゐ〳〵跪〳〵たヲ
少シ引メニタ良キ向・ゐ〳〵ゐえゐや楽シル心ニテ少シ右ヲ
引ワキヲシカト見・扨袂ヲうろ〳〵こなたノコシヲ引立ワキへ気ヲ
カケル・なと跡ゆきを又ワキへ気ヲ引立見・扨さまざまく〳〵
ゆく〳〵ハ少シ気ヲユルメ・扨ハ化ある父の少シワキへ
気ヲ引立・さおとハそなたの内へトリ正へ直ス・扨や
さいこのワキへ物語ヲキヽカケル心持・実やるけきてゐ
るヤワラゲテ内へトル心・うれ時ハ気ヲカヘテヲモクロ
シク立

又

（ヲシテ右ノ手ニサシカタスタン ワキヲ見ニテサシテモコシン）
ふゝこゝ後のおうらんぞ

松満

装束之覚

初シテ　面深イ　うろ〳〵　同茶　着付箔
　　上着色ナシ唐織　厚文ワキ持出ル
後　面同断　うろ〳〵　同茶　着付箔　腰帯
　　腰巻縫入箔・水衣カルサ　笹　扇
　　物着ニ長絹カ（鐙直垂カ）　前折烏帽子カ（京極折カ）
子方　角帽子　厭斗目　水衣　腰帯　扇

子方ノ附

・ワキノ先ニ立出正先ニテ正向ワキト若ニ挨スミ先こう
いうと〳〵ニテワキ坐へ行下ニ居・そなた向ニてうつむつき
トワキ引立ル時立シテ一向居・ゆうとはゝこと〳〵ニテ立行
時ツレテレテ入ル

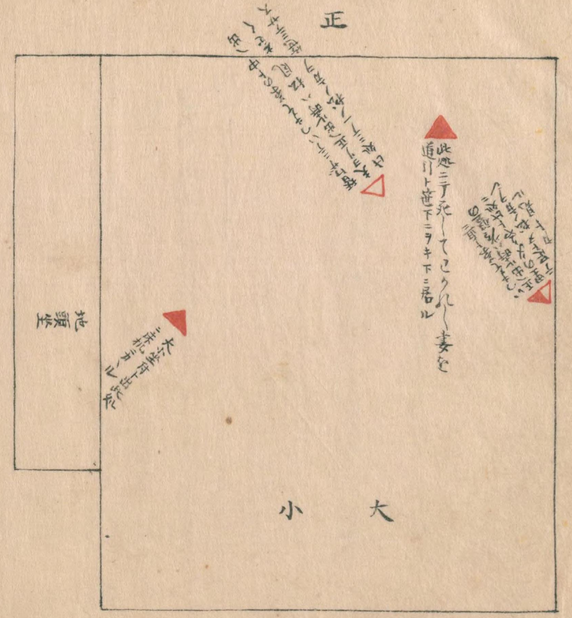
又

（右ヲカケ）
・ゑめとうぬ我等（正出ヅニ中行）ゑまのいつまでとうぬ
ゐうるうるこゝ（正ニテヲキ）うろ〳〵と（此末同断）ゐる初ゆ

又

（正先ヘ出）
・ゑのさこ〳〵ひらけたのし（左ノ手ニサシ立右ノ手ニサツキ一ツ下ニ居ル次リニ直ニ安坐）ゑゑ
ゑ（此末同断）

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』　請求記号 寄別5-6-2-1
ガラス使用



又替拍子

●文ノ文字加此書ノ事ハアラ子ヒ讀ノ様ノクダリヨリ記ス

●長指タミエリノ方ヲ左ニシ其上ヘ烏帽子左ノ方ヘヨセ烏帽子ノ先ヲ左ノ方ニシテ長指ヘトヂ附ル

●袴程村ノ紙ヲ用ユ七折半ニ折ル

舞附

●大小坐舟ト幕上ヶ出地謡坐ノ方ニテ正面ウケ床机ニカヽルシテ床机ニカヽルトワキ次第ニテ出ル●藻刈ヨリ小
左帝ノ系リテハあゝルトヽく星やヒ原ノ少ハ●も
しゝのくワキ●此段ハ正

殺会弘いさやうさん　いろみやよみ式部
名乗りもせぬ乃ゆしかりし主は別
生しきあみ乃蓮なる身にあらんころ今は
あさましき罪なくて尽きぬ隙もあらま
しかれども讀しも思ひ知られたる身とも
出来よ来り打てきあみ乃ゆは生まる言ふ
とも初めやさらにひいたる言いとや
此寺の直の主は萬何事付
ても関のふしは三あとやらんと付そ
後へ哥連歌乃みちもさそ若成しよて
さらかとの行業ハいて人よ乱舞
まめて二ちんとくにろひ直蓄もの
衰終ちからくさひくさるゆかりと

てくおろやさしき拍子のへよろやさをて
扇おつとりてみる八瀧乃水それ会
称名乃声の中ハ振る光乃ときは
ちぎり来迎乃雲の上ハ楽
蓮臺ちる花散る天香満て人
は薫し白虹地にみちてちぎる声
倩世間乃幻相を観ずるに飛花落葉
紫雲乃花はよそに見る有為転変をさ
とり電光石火乃影のうちには生死
乃去来をみることも始めて驚くべき
あらぬ世の中の夢をまどはれ
乃親子の中とともにその果もまた
乃道乃まよふ身の中の迷ふ

三十八

国立国会図書館　タイトル『[観世流能附并舞附本]』 請求記号 寄別5-6-2-1

ガラス使用

国立国会図書館　　タイトル『[観世流能附并舞附本]』　請求記号　寄別5-6-2-1

ガラス使用